持続可能な社会とグリーンビルディング

及川　雅史

グリーンブルー株式会社

近年,「SDGs」の浸透を実感しています。SDGsとはSustainable Development Goalsの略で,「持続可能な開発目標」と翻訳されており, 外務省のホームページから引用すると,「国連サミットで採択された, 誰一人取り残さない, 持続可能でよりよい世界を目指す国際目標」となっています。

SDGsは, 2016年から2030年の15年間での達成を目指している国際的な目標です。2015年9月に国連で開催された持続可能な開発サミットで国連加盟全193カ国によって採択されており, 基本的な理念は「誰一人取り残さない」としています。

SDGsは17の目標とその目標内に設定された169のターゲット, 指標となる232のインジケータで構成されています。17の目標は, 経済・社会・環境の分野をまたがる内容となっており, 各々の3分野の調和が重要となります。

さて, SDGsを意識して室内環境をみると, グリーンビルディング（サスティナブルビルディング）という言葉に出会います。グリーンビルディングは, 建設や運営に必要となるエネルギー, 水の使用量の低減, 施設緑化などを通じて, 建物全体の環境に関する性能が向上するように配慮して設計した建築物のことをいいます。世界グリーンビルディング協会によると, 建物からのCO_2排出量は総排出量の30%, 世界の飲料水の14%を消費しているとされており, 単に建築業界の問題ではなく世界的に低炭素社会を実現するためにCO_2排出量や水使用量の少ないグリーンビルディングはSDGsの側面からも重要なテーマと考えられます。主にエネルギー, 資源使用量の削減に着目したグリーンビルディングですが, 最近では建築物を利用する人の健康や快適性にも着目し始めています。

このようなグリーンビルディングを建築・評価するための認証制度が世界各国で設けられています。一例ですが, 日本ではCASBEE, 米国ではLEED, WELLという認証制度が知られており, 2017年4月時点でCASBEE認証取得物件数は602件, 自治体への届出物件数は2016年3月時点で18,552件と報告されています。

私は環境モニタリング, 環境調査を行う会社に勤め, 規制や健康被害防止の側面から大気汚染, 室内空気質などに関ってきました。加えて, ここ1, 2年は上述のグリーンビルディングに関心をもって取り組んでいます。今年は新型コロナウィルスの流行もあり, 安心安全を求め, 感染症に対する室内空気や換気への関心が顕著に高まりました。感染症対策もSDGsの一つの側面です。2030年までのSDGs達成のために2020年1月からは「行動の10年（Decade of Action）」と言われています。私は室内環境を通じて持続可能でよりよい世界に向け, 微力ながら行動していきたいと思います。